

“創知協働の森づくり”と“循環利用の森づくり”を進めよう!



■表紙写真 題名：深秋のハイキング 撮影場所：梅ヶ島（安倍峠） 撮影者：佐藤 美栄子 氏（静岡市）



© 静岡県

## INDEX

- 2** 首長は語る  
袋井市は健康を保ち都市と自然が調和するまち
- 3** 森林・林業研究センターだより(No.57)  
試験研究成果の普及
- 4** 現地レポート  
間伐材を利用した漁礁の設置について
- 5** 林政ニュース  
平成20年度森林・林業技術研究発表会の開催
- 5** 地域だより  
森を活かした健康づくり

- 7** 県庁だより  
静岡県花の会連合会
- 8** トピックス  
静岡県林業者大会の開催
- 8** 事務局だより

### 別冊折込

平成20年度しずおか森林写真コンクール入賞作品

# 首はる 長語

## 袋井市は健康を保ち 都市と自然が調和するまち

袋井市長 原田 英之



### 歩くを核としたまちづくり

私は毎日ウォーキングを行っています。遠州三山は歴史に触れて歩くのに良いところであり、太田川・原野谷川の岸辺は大変気持ちの良い、身近なウォーキングコースです。健康維持のために歩くことを市民に勧め、歩いた距離をカードに記入し提出してもらうことにしました。昨年度から、歩いた実績をポイントに換算して市バスや駐車場、市民プールが利用できるようにしました。

更に、今年度からは学校や老人クラブにポイントを寄付できるようにしました。

また、地域通貨の導入などを含め、国の「国土施策創発調査」を行い「歩くを核としたまちづくり」として、この仕組みを広めることとしました。

### 袋井市内の森

市内における森林面積は少なく、まとまった森は小笠山周辺と油山寺のあたり、そして三川地域の三箇所に分かれています。いずれも深い森ではありませんが、森の持っている意味はとても大きいものがあります。いわゆる、生活の糧にするための森ではありませんが、市民生活との係わりや多くの観光客が訪れるなど、

大変親しまれている森です。

しかし、心と体のリフレッシュの場、歴史と豊かな自然を楽しむための場とするには、森にも人にも優しい遊歩道等の整備が必要であると考えています。



▲法多山



▲可睡齋本堂

### 木材を活用し森の整備を

「森は海の恋人」とも言われ、森の荒廃が川や海的环境に大きく影響しているため、木材資源を有効に利用することが重要だと考えます。市内のメロン農家では、市が支援して温室暖房を重油から木材チップに変える試験を行っています。これは重油が高騰したこともあります。木を使うことが地球環境にも優しく、森林の整備にも最終的に繋がっていくと考えるからです。

しかし、森を守ることは自治体単位では困難であり、県や流域など大きなエリアで考えていくことが重要

であり、木材の利用も含め広い視野で林野行政を考えた方がよいと思います。

### 子どもたちへ伝える海岸の松

浅羽海岸の第1線の松林は県有砂防林であり、管理は県と協定を締結し、市が行っています。その内陸の松林についても市が管理しており、太田川から弁財天川の5km範囲は、松くい虫による被害が大きく、ボランティアにお願いし、平成17年度より5年計画で抵抗性クロマツを植えてきています。市民の手で木を植え、その木を大切に見守っていく事は、精神的にも大変よいことであり、30年後には立派な松林が出来上がることは大変誇らしいことです。



▲グリーンウェーブ活動風景：  
ボランティアによる植樹活動

### 自然を感じ 心も体も健康で

袋井市は農業のまちです。田んぼや畑が広がって、その周りに山があります。私達が生活していく時、新鮮で安全な食べ物が身近にあり、自分の目にみどりの色が映ることは、とても幸せで大切なことです。

少し前までは東京など大きな都市、便利な地域に価値があると思われていましたが、環境保全や食料の安全等様々な課題が起こっており、自然が感じられ、心も体も健康に過ごすことが出来る地域をつくるのが住民のためと考えています。

そこで、社会全体が健康でいつまでも過ごせるまちをつくりたいという願いをこめ、「人も自然も美しく活力あふれる 日本一健康文化都市」を市の将来像と定め、まちづくりを行っています。

# 森林・林業 研究センターだより

No.57

## 試験研究成果の普及

企画指導スタッフ 佐野 信幸

森林・林業研究センターの試験研究成果の普及について紹介していただきました。

森林・林業研究センターでは、研究の成果を広く関係者並びに県民の皆さんに周知・活用していただくため、印刷物、発表会、ホームページその他新聞、雑誌などによる普及を図ると共に、外部からの要請に応じて出前講座、技術指導等を実施しています。以下にその概要を紹介しま

### 1 印刷物の発行

当センターでは、さまざまな印刷物を発行して、研究成果の普及に活用しています。



▲発行している印刷物

印刷物の内、1年間の全業務の概要をまとめた「研究業績概要集」(H18年度までの業務報告書)は、年度内に行われた研究内容を取りまとめたものです。

また、所定の研究期間が終了した課題については、順次その成果を取りまとめ、より詳しい研究成果を伝えるために「研究報告」を年1回発行しています(H19年度から農林技術研究所でまとめて作成)。研究報告では、聞き慣れない専門用語や難解

な表示等が用いられることもあり、平易に理解しにくいものもあるため、成果の普及に当たっては、より一般の皆さんにご理解いただけるよう、平成17年度より「わかりやすい森林・林業シリーズ」(A4裏表1枚、カラー印刷)等も発行しています。本シリーズは現在までに6編(No.6)刊行されており、当センターのホームページからご覧いただくことができます(PDFファイルでダウンロード可)。

さらに、重要な成果については、毎年1編程度を選び「あたらしい林業技術」(約10ページ程度の冊子)として発行します。

### 2 研究成果の発表会等

前年度の研究業績概要集の印刷ができあがる5月には、各研究員がそれぞれのテーマから代表的な研究成果を1つずつ紹介する形で、試験研究業績報告会(H18年度までは業務報告会)を行っています。



▲研究業績報告会

また、これとは別に森林・林業の関係者の参集をいただき、7月には当センター振興協議会講演会、9月には県森林・林業技術研究発表会で発表すると共に、一般県民の皆さんに対しても、環境・森林フェアの場においてパネルの展示、研究成果発表等を行うことで効果的な普及に努めています。

さらに、関係機関や団体からの要請に応じて、出前講座として講演会、講習会等を実施しています。平成19年度には23回の講座を実施し、延べ1,075人に研究成果に基づく結果をお伝えすることができました。

### 3 新聞、雑誌等による広報

新しく開発した技術等の成果については、いち早く県民の皆さんへの周知を図るため、その都度新聞やテレビ等を通じてお知らせしています。その他「森と人」や「F&F」などの関係団体による定期刊行物の紙面をお借りして「森林・林業研究センターだより」として、定期的な情報発信に努めています。

### 4 技術指導・森林環境教育指導

来訪者や文書、電話、メールなど個別の相談にも応じています。

また、近年は小中学校等において環境教育への関心が高まりを見せていることから、総合学習の時間を利用した森林環境教育の場として、当センターが活用されています。

相談件数と施設見学等を含めた平成19年度実績は、973件5,727人となっています。

森林・林業関係者を対象に、研究発表会や講習会等の場において試験研究の成果を普及していく時、現場での様々な問題や、今求められている技術的課題を知ることができます。それらの問題や課題を的確に把握し、今後も関係者の皆様方の協力をいただきながら研究に取組み、成果の普及に努めてまいります。

## 現地レポート

# 間伐材を利用した漁礁の設置について

由比町 産業観光課  
高橋 賢二

日本一桜えびのまち由比町からは、ヒノキの間伐材を利用した漁礁の設置から現在までの経過を産業観光課高橋賢二さんに紹介していただきました。なお、11月1日より静岡市と合併にあたり由比町としては最後の記事となります。

### 漁礁設置のきっかけは？

平成18年10月、漁業者と雑談を交わしていたところ、「スギの間伐材漁礁が効果あるみたいだから、由比でもやってみない？」との話を受けたことがきっかけで漁礁の計画が始まりました。

従来、漁礁はコンクリート製や鋼製が主流でありましたが、間伐材はフナクイムシ等穿孔性の虫が、木材の表面を食べることによって、海の中の食物連鎖が起こり、コンクリート等の漁礁に比べて、非常に飼料効果が高いことが確認され、近年注目されております。

当町の海岸線は東名高速道路と消波ブロック等のコンクリート構造物に覆われた人工的な海岸で形成されています。

近年、設置後、40年を経過した消波ブロックが劣化により破損して海中に流出し、漁網を破る被害が多発しており、漁業経営を圧迫している状況にあります。

将来を考えた場合、コンクリート等、今後の漁業や海洋環境に支障になるような材料は使わず、間伐材を含めてなるべく自然に還る材料を使用することが、今地球環境に求められていることではないかと考えました。

間伐材は森の力再生事業と連携し、ヒノキの間伐材を調達。漁礁の形も、大小さまざまな模型を製作し、試行錯誤した結果、結束材としてのワイ

ヤーやおもりの網など、必要最低限のものだけ人工的な素材を使い、現在の形を考案しました。

### 緊張の中での海底据付

平成20年3月5日、計画から1年以上を経て、ようやく漁礁設置の日が到来しました。

設置箇所である水深30m地点では、水圧の関係から潜水時間が極端に短く、潜水夫の海中作業が制限されることから、特殊な装置を採用して据付を施工しました。

緊張の1基目。起重機船の上でクレーンに漁礁が玉掛けされ、海中に沈んでいきました。海底には無事着

地しましたが、「ワイヤーが外れない。」とクレーンのオペレーターから一言。

当日は、テレビ局2社も取材にきており、カメラが回っている中、失敗は許されない状況でしたから、装置に改良を施し、再度据付に挑戦、無事据付を完了し、フックのみが海上に姿を現したときには、海上にいたすべての人から歓声があがりました。

無事に7基すべての据付が終了し、関係者一同、安心したというところが正直な気持ちです。

設置から16日後、潜水調査を実施しました。魚の蛸集効果は確認済みなので、据付が適切に施工できているかが問題でしたが、すべてきれいに据付られていることが確認でき、海の中に森が出現したような景色と、大小さまざまな魚が漁礁に集まり泳ぐ姿が確認できて漁業者とともに効果を実感した次第です。

また、設置から4ヶ月経過した7月29日に、再度潜水調査を実施しております。

夏季は海の透明度も悪く、きれいな写真が撮影できませんでしたが、イシダイをはじめとした15種類以上の魚と、アオリイカの卵を確認することができ、自然の多様性を改めて実感することができました。



▲漁礁据付

# 林政 ニュース

## 平成20年度森林・林業技術研究発表会の開催

平成20年9月8～9日の2日間、静岡県男女共同参画センター“あざれあ”において、静岡県森林・林業技術研究発表会が、延べ586名の参加のもと開催されました。



▲開会式の様子 (衛門建設部長あいさつ)

本年度は、23件の森林・林業、治山、林道に関する発表が行われ、行政以外の関係業界からも5件(うち2件は行政との共同)の参加をいただきました。今回の発表テーマは、森林環境教育から、病虫害対策、効率的な木材生産、森林整備、法面保護、新工法など多岐に亘っていました。

【発表分野の内訳】 (単位:件)

	森林・林業	治山	林道	研究センター	計
県	4	6	1	3	14
市・町	3		1		4
関係業界	1	3	1		5
その他					
計	8	9	3	3	23

\*その他とは、ボランティア団体など、関係業界とは、森林・林業関係、建設業関係  
\*行政との共同発表については、行政以外へカウント

発表内容は、取組みの事例紹介から、発表者自らが日常業務を通じて疑問に感じていることを課題設定して調査を行い、その結果を踏まえて考察する等、広範囲となりました。

こうした中から、次の8件が優秀な発表として、全国等の研究発表会候補となりました。全国等の発表会においても、優秀な成績を収められることを期待しております。

### 【優秀発表】

#### ●森林・林業部門 4件

##### ①「間伐材を利用した漁礁の設置」

由比町役場 高橋賢二

##### ②「賀茂林業活性化プロジェクト始動 ～県営林から発信する林業～」

賀茂農林事務所 佐々木重樹  
野田友子

##### ③「天竜の森 夢物語」

天竜森林組合 野沢利通

##### ④「森林と県民が共生する社会づくりのために ～森林環境教育の現場から～」

志太榛原農林事務所 池田智子

#### ●治山部門 3件

##### ①「広葉樹の巻き枯らしによる森林整備の検討」

賀茂農林事務所 大川慎一

##### ②「平成18年度治山(緊急)河内沢工事における安全施工 ～ワイヤー式ラジコン掘削機械・低震動破碎の使用～」

株飛鳥 稲毛健

天竜農林局 榊原道伸

##### ③「スコリア土地帯における鋼製構造物の耐久性」

東部農林事務所 中山淳也

#### ●林道部門 1件

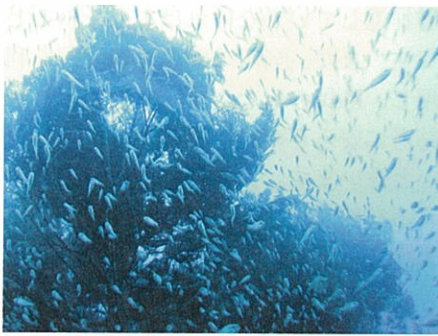
##### ①「森林基幹道を拠点とした森林施業の集約化」

東部農林事務所 寺田真巳

昭和41年度に第1回治山・林道研究発表会に始まるこの発表会は、今回の発表会で37回を数えます。これまでの発表の中には、全国で優秀賞を受賞したのも多く、実際の業務に活かされて、森林の適正な整備・保全に貢献しているものも数多くあります。

来年度も多くの方に参加いただき、様々な「森林との共生」に向けた取組が広く情報発信され、実践に活かされていくよう、より充実した研究発表会としていきたいと考えておりますので、会員の皆様も積極的に参加していただきますようお願いします。

(県建設部 森林局 森林保全室)



▲潜水調査

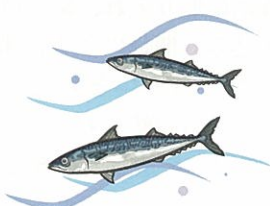
## 地球にやさしい森林・海洋環境を目指して

将来像としては、継続的に漁礁を設置し、周辺海域を海の森のように間伐材の漁礁で埋め尽くし、大小さまざまな魚が寄ってくる姿を想像しています。

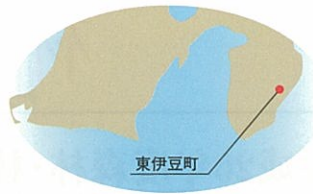
今回は初めての試みであり、試験的な要素も多分に含んでおりますが、今後改良を重ね、漁礁の材料すべてを自然素材で構成し、地球にやさしい森林・海洋環境を形成していくことが目標です。

本来は、昔のように森の栄養が、自然の流れの中で海に運ばれていけば良いのですが、人間が社会生活を営んでいくためには、人工的に漁礁を設置するというのも、仕方がないことだと思っております。

この間伐材漁礁をきっかけに、皆さんが自然環境について真剣に考え、森と海を守り、つくり育てることへのひとつの契機となることが何よりの成果だと考えております。



# 地域だより



## 森を活かした健康づくり

東伊豆町 建設産業課

森林の荒廃が社会問題となっていますが、東伊豆町でも例外ではなく、早急な森林整備が望まれています。今回は、町の森林整備における施策と現況や、すでに整備され町民の憩いの場として親しまれている「ふれあいの森」を紹介していただきました。

### 東伊豆町の概要

私たちの町は、伊豆半島東海岸の中央部に位置し、北は伊東市、西に伊豆市、南に河津町と接し、東側は太平洋を臨む総面積77.83km<sup>2</sup>で、東西15.04km、南北13.78kmとなっています。

気候は温暖な海洋性気候で、比較的過ごしやすく、年間降雨量1,940mmと農産物の栽培に適した条件を備えています。

また、富士箱根伊豆国立公園の指定を受けており、天城連山と太平洋に囲まれた、風光明媚な所です。



▲東伊豆町大川箒木山から風車を臨む

### 森の課題

東伊豆町の林野面積は、5,835haで東伊豆町総面積の75%をも占めており、急峻な地勢の森林は自然災害等もかなり懸念されます。

先日、ある新聞に「森は死ぬか」という記事が掲載されていました。内容はこうでした。「森を歩き斜面を登ろうとすると土に足をとられズルッと滑る。周りには、植林後25年目のスギが根こそぎ倒れ、17年目のヒノキの根が土から完全に浮き上がっている。木の間隔は狭く枝が重なり合い、陽の光も

入らず暗い。間伐等の手入れもなく、木も土壌も荒れ放題の「幽霊林」という内容でした。

当町における森林も正にこの記事の如く、全体的に荒れているのが現状です。

最近、日本全国で異常気象による大雨で、土砂崩等のニュースが頻繁に報道される。本来、森が土砂崩れを防ぐ役割をするのではないだろうか。土砂崩れも様々だが、しっかり手入れさえしていれば、陽射しにより下層植生が育ち、降雨の際、水滴を受止めて飛散させる機能を持つ。そういった手入れが森の保育であり自然が育む緑のダムに繋がる。日本の全森林は年間約数十兆円もの恩恵を受けているそうだが、今後、森林整備に対し、さらに力を入れなければならないと感じた。

### 今後の展開

今後は、森林整備計画に基づき当町における森林の機能回復を含め、積極的に展開していかねばならないと思います。

- ・森林整備計画に基づき林業振興を図る。
- ・保安林整備により、森林資源の保護を図る。
- ・土砂流出等の防止のため、治山事業を実施し健全な森林状態の維持を図る。
- ・自然環境を活用し、林業の振興を図る。

以上の点が、東伊豆町総合計画にも掲げた主要施策であり、今後、より一

層推進していかなければならないことです。また、当町の緑豊かな資源を利用し、町民のみならず、一般の町外来訪者に安らぎの空間を提供していきたいと思います。人々のニーズに応えられる自然環境の整備が求められているような気がしてなりません。そして、今後の森林事業を推進していく上で、次代を担う子供達に森林本来の持つ「力」の認識を図るべく活動を積極的に取り入れていきたい。

### 憩いの場

当町のふれあいの森は、生活環境保全林事業で整備され、土砂流出防備保安林と保健保安林に指定されています。園内には、芝広場やお花見広場といった自然の空間があり、また、50m滑り台やアスレチック等の子供の遊具も設置されています。ここ数年は、来園者も年々増加し、クロスカントリーコースの一部であることから、ジョギングする人、ウォーキングする人等様々で、園内の四季折々の植物を觀賞できる“癒しの園”となっています。



▲ふれあいの森遊び広場



▲桜満開のクロスカントリーコース

今後もグリーンバンク事業や治山事業を積極的に取り入れ、桜の植栽や植物の植え込み、間伐による森林の保育を推進していきたいと考えております。これからも自然にもっと目を向け「癒しの空間」を造っていききたいと思います。

# 県庁だより

## 静岡県花の会連合会

～花と緑のボランティア～

県民部環境局 自然ふれあい室 緑化係

雑踏の中、街角や街路などに植えられている花々が、しばし私たちの心を癒してくれますが、その花を育て管理しているのが『静岡県花の会連合会』のボランティアの方々です。今回は、花の会の歴史や事業の取組について自然ふれあい室より紹介していただきました。

### 1. はじめに

静岡県は変化に富んだ豊かな自然に恵まれ、自然を活かした生活・文化を築いてきましたが、近代社会において工業化や、都市への人口の集中化が進み、生活が便利になった反面、自然とふれあう機会が減少してしまいました。このような環境のなか、県土の3分の2を占める森林は、水源かん養、山地災害の防止の他にも、登山や森林レクリエーションの場としても、非常に重要な役割を有してきました。

その一方で、限られた都市空間において生活を営む都市生活者にとって、快適で潤いある生活環境を確保するため、最も身近にある「都市の緑」に対する関心も高まっています。

そこで今回は、私達が住む「都市の緑」を半世紀以上にわたり、育んできた『静岡県花の会連合会』の活動を紹介します。

### 2. 静岡県花の会連合会とは

読者の皆様は、駅前や公園で、色鮮やかに咲き誇る花々に目を奪われ、足を止めた経験はありませんか？「静岡県花の会連合会」は、このような公共の場所で、花と緑を通じ地域の人々の「くらし」と「こころ」を豊かに彩る活動を続けています。わかふじ国体や浜名湖花博等の大規模なイベントが開催された際は、数千鉢もの色鮮やかな花々を無償で提供し、来場される方々に、おもてなしの心を届けてきました。また、学校や福祉施設へも花々

を提供し、「こころ」の交流活動も深めています。

このような活動を続ける会の歴史は大変古く、設立は昭和31年まで遡ります。現在、県下全域に53団体の「花の会」が組織され、約1万6千人のボランティアが地域緑化、環境美化のため一生懸命活動しています。

〔花の会〕管理花壇例



▲浜松市花いっぱいコミュニティ緑化連絡協議会



▲富士宮花の会

### 3. 今年度の主な事業

今年5月に平成20年度総会を開催し、長年にわたり顕著な活動をされた48名と12団体を「一家一年一木一花運動」の功労者として表彰しました。今年の秋には、情報交換会を開催し、県

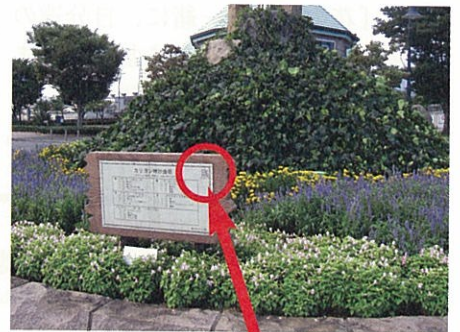
内各地で活動する会員の情報を共有し、緑化技術の向上につなげる他、新たな活動の検討も進めていきます。

### 4. モバイル花の会

「花の会」は、このように、献身的な活動を長年続けてきましたが、その一方で、会員の高齢化や減少といった、林業就労者と同じ問題を抱えています。美しい花々の管理には、水遣りや施肥等、大変な労力を必要とする作業もあり、若い力の獲得が重要となっています。そこで、課題の解決に向けて、今年度から新たな取組みを始めたので御紹介します。

皆様、現在、雑誌や看板で使用されているQRコード(写真参照)と呼ばれるマークを目にしたことはありませんか？このマークを携帯電話のカメラで撮影すると、面倒なホームページのアドレス入力を省略でき、とても簡単にホームページを閲覧できます。また、情報を集約できるため、小さい広告欄でも沢山の情報を掲載できます。このため、携帯電話を活用する若い世代を中心に、広く普及しています。

連合会でも、これを活用し携帯電話、パソコンの両方で閲覧できるホームページ(<http://www.greenbank.or.jp/volunteer/flower/hananokai.html>)を作成しました。



▲富士市花の会花壇



▲QRコード(看板用シール)

清水花の会  
～会員募集中～



おもな活動は、清水区各地の花壇作り(月2回程度)小学校・養護学校の子ども達と交流し、一緒に花を育てています(年3回)。  
また、国営市での出店や講師をお招きする講習会、全国各地の研修旅行など楽しいイベントも企画しております。ガーデニングに興味のある方なら、どなたでも大歓迎です。小さなお子様連れの参加もOK!私達と一緒に花づくりを楽しんでみませんか?ぜひ、お気軽にご連絡下さい。

●団体名 清水花の会  
●連絡先 静岡県自然ふれあい室  
●電話 054-221-2849  
●FAX 054-221-3278  
●Eメール fureai@pref.shizuoka.jp  
●活動場所 静岡市清水区桜ヶ丘公園、折戸花壇、清水区役所、清水区文化センター前  
●会員数 70名  
現在 会員募集中

※このホームページは(財)静岡県グリーンバンクの支援を受け制作しています。

▲ホームページ

更に、窓口となるQRコードを印刷したシールを作成し、「花の会」が管理する花壇の看板への貼り付けを進めています。これにより、花壇を見て美しいと感じた、その時、その場所で、「花の会」の情報が得られる環境が整備されます。花と緑のボランティアの輪を広げるため、また、「花の会」が県民にもっと身近に感じてもらえるよう、今後も情報発信をしていきます。あなたの街の「花の会」にぜひアクセスしてみてください。

5. ボランティア募集中!

各市町の「花の会」では、活動に参加してくれるボランティアを募集しています。花が好きの方、活動に興味を持たれた方、性別、年齢等一切問いません。「花の会」と一緒に、自分達の住む街に花と緑の色彩を加えてみませんか?

事務局だより

★9月には、当協会が相談窓口となっているUターンチャレンジ事業の研修会を、下記のとおり実施いたしました。両研修とも、参加者より所有山林管理の参考になった、これからも林業作業に繋がる研修を実施して欲しいとの要望があった。

★志榛農林事務所管内(5日～6日)  
講師に静岡森林塾の清水光弘氏を招き、チェーンソーの目立てと基礎的なワーク(取扱動作)を2日に亘り学びました。また間伐材の利用を図るため、

トピックス

静岡県林業者大会の開催  
～間伐材で木道づくり～

9月22～23日、静岡県林業研究グループ連絡協議会主催の林業者大会が開催されました。林業者大会は、森林や林業の役割を広く一般の皆さんにPRするとともに、林業を通して地域おこしをするを目的に毎年開催されています。今年も地元高校生108名の参加を得て、盛大に開催することができました。

1日目の22日は林研会員と下田高校南伊豆分校の全校生徒が協力し、南伊豆町の菜の花畑に間伐材を使った木道とベンチの設置を行いました。



▲完成した木道

南伊豆町の菜の花畑にご存知の方も多と思いますが、春は菜の花、夏はひまわりが一面に咲くことで有名な観

ログソールによる角材、板材の製材も実習いたしました。

★中部農林事務所管内(10日～11日)  
講師に大橋慶三郎氏他を招き、大橋式作業路の開設について学びました。初日は路線計画と配慮すべき工事のやり方の講義、2日目は現場において実際の路線設定と、開設中の作業路の問題点等について学びました。

★県林研連絡協議会の主催で、静岡県林業者大会を南伊豆町で開催しました。下田高校南伊豆分校の生徒さん達と一緒に、菜の花畑への間伐材を活用した木道づくりを行いました。詳しくは本文をご覧ください。

★本年度もしずおか森林写真コンク

光スポットです。ここには平成13年の林業者大会で設置した木道とベンチがありましたが、老朽化したため今回の大会で新たに設置しました。

使用したのは賀茂地区のスギの間伐材。参加者は8班に分かれ、木道の杭打ちから開始。林研会員がかけやで力強く杭を打つ姿に、生徒たちは合いの手を入れたり、女子生徒も杭打ちに挑戦したりして作業は賑やかに、順調に進んでいきました。作業開始から約3時間後、100mの木道とベンチは無事に完成!



▲生徒も杭打ちに挑戦!

2日目の23日は、日本では珍しいというクスノキの人工林がある東大樹芸研究所の演習林を視察し、見聞を広めることができました。

二日間に亘る大会は天気にも恵まれ、多くの参加をいただき無事に開催することができました。下田高校南伊豆分校の皆さん、ご協力ありがとうございました。

(静岡県林業研究グループ連絡協議会)

ルを募集したところ、大変質の高い作品が例年同様、多数集まりました。

9月24日に審査会を無事終了し、この号に入賞・入選作品を掲載する事が出来ました。募集に際しましては、会員はじめ関係者の御支援御協力に対しお礼申し上げます。(本間)

社団法人 静岡県山林協会  
静岡市葵区追手町9-6西館9F  
「森と人」 TEL: 054-255-4488  
編集・発行 FAX: 054-255-4489  
E-mail: sanrinky-moritohito@gaea.ocn.ne.jp  
http://www.moritohito.jp



この用紙は、間伐材を原料としております。



# 平成20年度 しずおか森林写真コンクール入賞作品



最優秀賞

## 深秋のハイキング

佐藤 美栄子 (静岡市)

撮影地：梅ヶ島 (安倍峠)



## 審査講評

審査委員長  
三井 章二

森林写真コンクールも今年で25回目を迎えました。一般カメラマンの応募も増加し、写真の内容も向上して、立派なコンクールになりました。

今年は、166点の応募があり9月24日に審査を行いました。良い作品が多くて審査員も選考に苦労しました。

良い写真とは、「見る人に感動を与え、絵の中に物語が無くてはならない」と言います。

これぞと思う被写体に遭遇したら、何べんも足を運び、時を変え、アングルを変えて何枚も数多く撮ることで。一本のフィルムから一枚でも気に入った写真が撮れば上出来でしょう。

今回、入賞された写真の中にも、こうした苦労の末に生まれた作品が沢山

ありました。

最優秀賞の静岡県知事賞には、静岡市の佐藤美栄子さん「深秋のハイキング」が選ばれました。美しい紅葉の原生林です、これだけでも立派な作品ですが、落ち葉で染まる山道にハイカーを入れたことで最優秀賞にふさわしい写真となりました。応募締め切りが夏のため、紅葉の写真が今まで無かったことも幸いました。

特選の静岡県山林協会賞には、浜松市の伊藤正義氏『『間伐』丁寧』と浜松市の大野重男氏「山の神」の2点が入りました。

『『間伐』丁寧』は、手入れの行き届いた森林で、大きなチェーンソーを手馴れた手つきであやつり、間伐作業をする情景が的確に捉えられております。林内作業の現場は、中々遭遇することも無く貴重な写真です。

「山の神」は、山の神をお祭りする供え物を写した写真であり、龍山の山林をよく歩きましたが、このような風景は初めて拝見します。山仕事は危険

が伴う為か、昔から「山の神」を崇拝し祭られておりますが、このカラフルな供え物はいったい何でしょう？、後世に残したい珍しい神事の写真です。

準特選には、5点が選ばれました。森 勇 氏の「間伐材搬出」は、間伐材の集材状況を2枚の組写真で巧みに説明しています。伐採しても集材に経費がかかり放置されることの多い間伐材ですが、このように機械化により利用の促進を図りたいものです。

望月政子さんの「ゆかいなモニュメント」は、テーマのとおりヒョウキンで面白い写真です。こうした自然の大木を利用したモニュメントも珍しく、よい被写体を見つけましたし、カメラアングルも良く、見る人を喜ばせる写真です。

松崎盛樹氏の「森林に生きる」は、清流の岩の上に飛来した美しい野鳥です。ルイビタキの(おす)でしょうか？、姿、色の美しさは勿論、獲物を捕って飛来した瞬間を写したシャッターチャンスは見事でした。

松永信一氏の「威風堂々」は、堰堤を写した土木技術的な写真です。山間地へ入ると堰堤は沢山見かけますが、この堰堤は独特な工法で造られており、珍しい構造をもつ堰堤と云うことで選ばれました。

西澤やえ子さんの「春よこい」は、太い丸太の上で遊ぶ二人の子供を写した写真です。演出が過ぎて危険を感じますが、思いきったトリミングで子供の表情が実に面白く捉えられていて、貴重な記念写真になるでしょう。

その他入選に20点が選ばれました。中でも鈴木美喜男氏の「苔むす森」、山田英雄氏の「霧の大杉」、伏見裕之氏の「あやとり」など力作であと一息といったところです。

また、次回も多数の応募を期待して講評いたします。



特選

「間伐」丁寧に

伊藤 正義 (浜松市)

撮影地：浜松市天竜区大栗安



特選

山の神

大野 重男 (浜松市)

撮影地：浜松市天竜区龍山町



準特選

森林に生きる

松崎 盛樹 (静岡市)

撮影地：静岡市葵区井川林道



準特選

間伐材搬出

森 勇 (静岡市)

撮影地：川根本町 (旧本川根町)



準特選

ゆかいなモニュメント

望月 政子 (静岡市)

撮影地：浜松市天竜区



準特選

威風堂々

松永 信一 (静岡市)

撮影地：静岡市葵区口坂本



準特選

「春よこい」

西澤 やえ子 (静岡市)

撮影地：静岡市葵区



入選

親子

梶原 俊介 (川根本町)  
撮影地：川根本町文沢



入選

あやとり

伏見 裕之 (焼津市)  
撮影地：浜松市天竜区



入選

檜皮職人

石神 俊一 (焼津市)  
撮影地：森町天宮神社



入選

材木の山

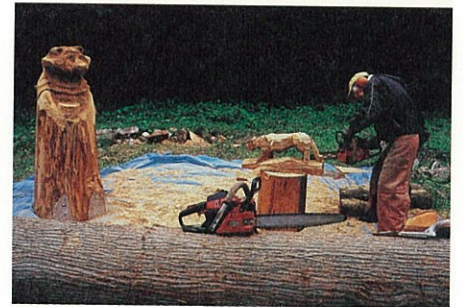
玉舟 祥子 (静岡市)  
撮影地：静岡市駿河区丸子



入選

重たいよ～!

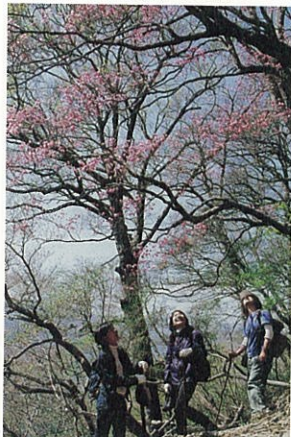
木下 安雄 (浜松市)  
撮影地：浜松市北区引佐町



入選

視線

小林 静男 (静岡市)  
撮影地：藤枝市



入選

赤ヤシオ見上げて

栗田 才治 (藤枝市)  
撮影地：川根本町(大札山)



入選

威風堂々

大塚 美代子 (静岡市)  
撮影地：浜松市天竜区佐久間町



入選

新緑への願いをこめて

宮崎 新二 (藤枝市)  
撮影地：富士市大淵  
(富士山国有林)



入選

相棒

青嶋 隆男 (浜松市)  
撮影地：浜松市北区引佐町田沢



入選

猿害を防ぐ

松本 幸男 (静岡市)  
撮影地: 静岡市葵区水見色高山



入選

スピード

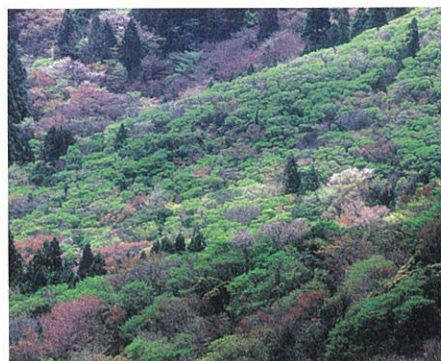
野沢 利通 (浜松市)  
撮影地: 浜松市天竜区



入選

山霧の正体?

宮崎 未知子 (静岡市)  
撮影地: 静岡市葵区口坂本



入選

芽吹く頃

勝亦 道子 (富士市)  
撮影地: 伊豆市 (西伊豆スカイライン)



入選

触れる

藤浪 健二郎 (静岡市)  
撮影地: 牧之原市切山



入選

森に遊ぶ

深沢 真 (下田市)  
撮影地: 富士こどもの国



入選

初夏の湿原

小泉 達雄 (島田市)  
撮影地: 川根本町



入選

苔むす森

鈴木 美喜男 (伊豆市)  
撮影地: 西天城 (みかさ山)



入選

霧の大杉

山田 英雄 (静岡市)  
撮影地: 静岡市竜爪山



入選

雪の朝

望月 正晴 (静岡市)  
撮影地: 静岡市葵区井川